

## 互いの気付きを学びに生かせる生徒の育成

—「書くこと」指導における対話・共有の活動を通して—

栗原市立志波姫中学校 後藤 志保

### 1 はじめに

実践力向上研究を進めるに当たり、これまでの自身の授業を振り返ると、「読むこと」領域の授業に重きを置きがちであり、「書くこと」領域の授業に関しては、生徒が主体的に学習を進めたり、「書くこと」を楽しみ思えたりできるような手立てが十分ではなかった。そのため、生徒の「書くこと」領域の力が十分に育っておらず、「書くこと」に自信が持てない、「書くこと」を楽しめない傾向にあったように感じる。

本校第1学年の生徒の実態を見ても、「書くこと」を苦手と感じている生徒は67.8%もおり、苦手とする理由として「どのように表現したらよいか分からない」「読み手を意識することが大切だと言われるがよく分からない」という声が聞かれた。

生徒の実態を把握し、「書くこと」領域の資質・能力の育成のために、生徒一人一人が書くことに意欲的に取り組めるような授業作りを目指していきたいと考え、本研究に取り組むこととした。

### 2 研究の内容と方法

生徒が「書くこと」への意欲を高め、「書くことが楽しい」と思えるような指導の工夫や、目的や意図に応じて構成を考えて的確に表現することができるような指導の工夫を研究する。

#### (1) 研究の内容

研究主題である「互いの気付きを学びに生かせる生徒の育成」に迫れるよう、以下の手立てを講じていきたい。

対話・共有の場を設定することで、多様な考えや友達の書いた文章の表現に触れ、そこから生まれた気付きを基にして、見方を広げたり、深めたりしていくものとする。以下の具体的な手立てを講じ、互いの気付きが「書くこと」における学びにつながるよう支援していきたい。

#### (2) 研究の手立て

##### ① 対話・共有の場の設定

友達が書いたレポートや作文などの作品を互いに読み合い、互いの気付きを共有する。

##### ② ワークシートの工夫

対話・共有の活動が「書くこと」における学び合いになるように、友達の作品を読み合う観点を明示

したワークシートを用いる。

##### ③ 自分の作品を振り返る場の設定

対話・共有の活動を通して自ら気付いたことや、友達の見などを参考にして、自分の作品を振り返る場を設ける。

##### ④ 自分の考えを説明する場の設定

自分がどのように作品を振り返り、手直ししたのかを友達に分かりやすく説明する場を設ける。

#### (3) 手立ての検証

本研究における手立てが有効であったかを、以下によって分析・検証する。

- 「書くこと」に関する意識調査 ○生徒の作品
- ワークシート（自己評価・感想も含む）

### 3 授業実践 I と考察

#### 【単元名】

調べて分かったことを伝えよう

「食文化」のレポート（新しい国語 I 東京書籍）

#### (1) 単元について

本単元は、調べたり考えたりした事柄を、相手に分かりやすく伝達する手段の一つとして、レポートの基本的な書き方を学んでいくものである。

国語の授業のみならず、総合的な学習の時間や様々な教科の学習において、生徒がレポートを作成する機会が多い。しかし、レポートを書くことについて、授業前に行った意識調査の結果を見ると、多くの生徒が何となく書き方は知っているものの、見出しの付け方や情報の整理の方法などに関して十分な知識を持っているとは言えないことが明らかになった。書き方に関する知識が十分でないため、レポートを書くことに消極的な生徒が多くいたと考えられる。

そうした生徒の実態を踏まえ、テーマの設定の仕方、集めた情報を整理・分類する方法、構成の工夫に重きを置き、伝えたいことが明確になるようなレポートの書き方を習得させるための授業を行った。

#### (2) 手立てについて

##### ① 対話・共有の場の設定

自分が書いたものを読み、伝えたいことが的確に表現されているか自己評価するだけでなく、相互評価・意見交換をすることで生まれた気付きを踏まえ、どのように書いたら明確になるかを考えさせたいと思い、対話・共有の場を設定した。

初めにレポートの下書きをグループで読み合い、伝えたいことが明確になっているか相互評価させた。相互評価したことを基に意見を交換し、伝えたいことを明確にするために、どのように書けばよいか考えさせ、清書に生かすようにさせた。

対話・共有について、活動の振り返りでは次のような感想が出された。(ワークシートより一部抜粋)

- ・友達のレポートは、疑問に思ったことが丁寧に調べていて、テーマの答えがしっかりと導き出されていた。
- ・自分のレポートは、テーマと調査内容がかみ合っていない部分があった。情報を取捨選択する必要があると感じた。

## ② ワークシートの工夫

「テーマに沿った調査内容が書かれているか」「テーマの答えが導き出されているか」などの観点を提示し、それらの観点に基づいてレポートを相互評価させた。生徒は観点の内容を理解し、評価する活動にしっかりと取り組んでいた。

## ③ 自分の作品を振り返る場の設定

対話・共有の活動を経て、友達からの意見や気付いたことを基に自分のレポートを振り返り、手直しさせる活動を設定した。読み手が分かりやすいように表を付け加えたり、テーマと合致するよう内容を書き直したりする生徒が多く見られた。

活動の振り返りでは以下のような気付きや感想が挙げられ、対話・共有の活動により、より良い表現の仕方やどのように書けば読み手に伝わるかということに気付いた生徒が多くいたことがうかがえる結果となった。

- ・自分で気付けなかった点に気付いたので、読みやすく書き直すことができた。
- ・誤字脱字や文章表現などのアドバイスではなく、「明確に書けているか」などの視点で意見をもらえたので良かった。

## ④ 自分の考えを説明する場の設定

自分がどのように作品を振り返り、レポートを手直したのかを友達に説明する場を設定した。

### (3) 成果と課題 (○成果, ●課題)

- 真剣に友達のレポートの下書きを読み、評価の観点をしっかり理解して評価していた。
- 生徒は予想以上に興味を持って友達のレポートを読んだり、評価したりしていた。その活動が次時のレポートの手直しに役立っていた。
- 友達のレポートを読むことを通して、レポートの書き方やどのように書いたらよいかに気付くことのできた生徒が多くいた。
- 互いにレポートを評価し合うという活動は想定していたよりも時間が掛かってしまったので、授業実践Ⅱでは活動の見直しを持たせ、時間内に終わらせるよう声掛けをしていく必要がある。
- 対話・共有の活動がより活発になり、多くの気付

きや学びにつながるよう、更にワークシートを工夫する必要がある。

授業実践Ⅰにおける生徒の気付きが今後の「書くこと」の活動につながっていくよう更に指導・支援を行っていきたい。実践授業Ⅱでは、根拠の明確さなどについて、読み手からの指摘を踏まえ、自分の意見文の良い点や改善点に気付かせ、「書くこと」への学びにつなげていけるよう手立てを講じていきたい。

## 4 授業実践Ⅱと考察

### 【単元名】

根拠を明確にして書こう「写真」の意見文

(新しい国語Ⅰ 東京書籍)

### (1) 単元について

本単元は、「事実と考えを区別して述べる」という既習の学習事項を踏まえて、考えを述べるときには根拠を明確にする必要があることを学ぶものである。自分の考えや意見を述べる際に根拠を述べることの大切さを理解するとともに、説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して、自分の考えが伝わるように工夫しながら意見文を書く活動を行う。そして、自分が書いた意見文について「根拠が明確に表されているか」「その根拠が説得力のあるものなのか」を考えさせ、「書く力」の伸長につなげられるよう、以下の手立てを講じ、授業を行った。

### (2) 手立てについて

#### ① 対話・共有の場の設定

実践Ⅱでは、書いた意見文を「伝えたいことが明確か」「根拠が明確に示されているか」「示されている根拠に説得力があるか」という観点で互いに読み、どのように書いたら更に良い意見文になるのかを助言し合う活動を行わせた。友達の意見文を読み、自分とは異なる表現の仕方や根拠の示し方に触れることで、どのように表現すればよいかに気付けるだろうと考えた。また、友達からの助言を受け、自分では気付かなかった良い点や改善すべき点に目を向け、自分の文章を更に良い文章にしていこうとする姿勢が、「書く」活動における意欲的・主体的な学びにつながると考えた。自分が気付いたことを伝え合うだけでなく、他の生徒の考えを参考にしながら、自分の考えを組み立て直していくことが、資質・能力の伸長につながると考えて設定した。

ワークシートに書かれた生徒の感想には、以下のようなものがあった。

- ・自分ではよくできたと思っていても読み合うことで自分の意見文の改善点を見付けることができた。
- ・友達の意見文を読んだり、助言をもらったりすることで自分の意見文が良くなる感じた。
- ・友達の意見文を読むことで根拠を明確にするためにはどのように書けばよいか学ぶことができた。

- ・友達の見論文を読んで、自分の意見文の足りない点に気付くことができた。
- ・助言し合う活動を通して、どう修正していくか学びがあった。

② ワークシートの工夫

友達の見論文がしっかりと書かれているか助言する際の観点となる「伝えたいことが明確になっているか」「根拠が示されているか」「示されている根拠に説得力はあるか」をワークシートに示し、助言する際の参考になるようにメモを取らせた。授業実践Ⅰではワークシートの記入に時間が掛かり過ぎてしまったので、授業実践Ⅱでは助言することをきちんとした文章として記入するのではなく、メモとして簡潔に書くよう指示し、ワークシートの記入欄もメモにふさわしい大きさに調整した。併せて、良い点や参考になった点についての気付きも記入できるよう工夫した。

③ 自分の作品を振り返る場の設定

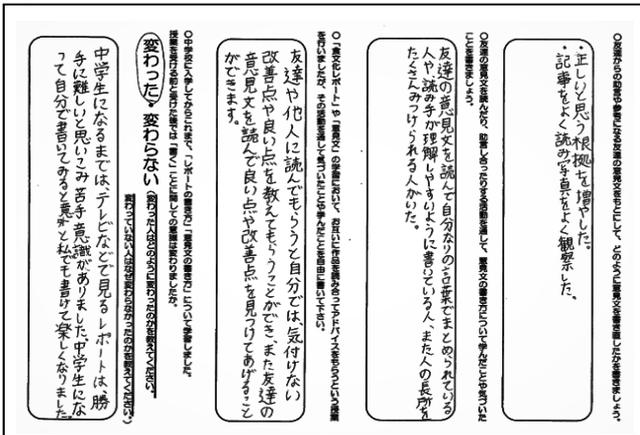


図1 生徒のワークシート

友達からの助言を受け、どのように自分の意見文を手直ししていくかを考えさせ、より良い意見文になるよう推敲させた。そして、この活動後に図1に示したような形で生徒の感想を書かせたところ、以下のような反応があった。

- ・自分の文章について、修正すべき点を友達から教えてもらうことで、より良い意見文に仕上げることができた。
- ・友達作品を読むだけで参考になり、どのように書けば良いのか気付くことができた。
- ・自分では気付かない点に気付いてもらえるし、友達作品の良いところを見ることができて、まねしたいと思った。
- ・友達の見論文と読み比べてみて、自分の意見文の何が足りないのかを明確にして伝え合うことができ、助言し合う大切さを学んだ。
- ・意見文の改善点を教えてもらい、更に良い意見文を書くことができた。

④ 自分の考えを説明する場の設定

どのように自分の意見文を振り返り、推敲し、より良い作品にしたのかを友達に説明した。友達の助

言をどのように受け止め、それをどのように生かしたのかを分かりやすく説明していた。

(3) 成果と課題 (○成果, ●課題)

- 助言のポイントとなる点をメモさせたことにより、スムーズに助言できている生徒が増えた。
  - 友達作品を読むことで、どのように書くと分かりやすいのか、どのように根拠を示せばよいのかについて気付く生徒が増えた。
  - 自分の作品を見直す時間を設けることで、友達からの助言を踏まえて自分の作品を手直しすることができていた。
  - 意見文の内容よりも誤字脱字等の表記に関することばかりを助言する生徒もいたので、意見文を評価する観点に照らし合わせて友達にアドバイスするよう声掛けする場面もあった。
- 実践Ⅰの活動が基盤となり、対話・共有の場ではスムーズに活動している班がほとんどであった。助言だけでなく、「参考になった点」についても伝え合うことで、自分では気付にくい「自分の意見文の良い点」にも気付くことができ、自信につながった生徒が多くいた。

5 研究の成果と課題

(1) 授業実践後の生徒の変容

授業実践後、国語の授業だけでなく、学活などにおいて感想や振り返りの作文を書く活動があったが、以前よりも「書くこと」に関しての苦手意識がなくなった。また、多くの場面で自分の考えを分かりやすくまとめて書くことや読み手を意識して書くことができるようになった。

表1・表2にあるとおり、授業実践の前に行った「書くこと」に関しての意識調査の結果から、4月の時点では「書くこと」を「嫌い」「苦手」としていた生徒も、2回の授業実践を経て、「書くこと」を前向きに捉えるようになったことが分かる。

また、「書くこと」に対する意識の変容も明確であり、レポートや意見文をどのように書いたらよいのか、どのようなものが分かりやすいのかを理解し、「書くこと」への意識が高まったことが、国語の授業以外の「書く」活動に取り組む姿からも見てとれる。

表1 「書くこと」に関する意識調査①

【作文や意見文を書く活動は好きですか。】 (調査対象生徒28名)		
	好き	嫌い
事前調査(4月実施)	32.2%	67.8%
事後調査(11月実施)	100%	0%

【「嫌い」と答えた理由】

- ・どう表現したらよいか分からない。
- ・書き出しにいつも悩んでしまう。
- ・読み手を意識するということがよく分からない。
- ・どのような文章が良い文章なのか分からない。

【「好き」と答えた理由】

- ・自分の考えを書くのが好き。(4月実施)
- ・普段から小説などを書いているので書くことが好き。(4月実施)
- ・レポートの書き方の工夫などを知ることができたので書くことが好きになった。(11月実施)
- ・分かりやすいレポートの書き方が分かったから。(11月実施)
- ・作文やレポートを書く時に気を付けなければいけないことを知った上で、相手に伝わるよう書くのが楽しくなったから。(11月実施)
- ・活動を通して「好き」というより「得意」になった。(11月実施)

表2 「書くこと」に関する意識調査②

【「レポートの書き方」「意見文の書き方」を学習する前と後では「書くこと」に関する意識は変わりましたか。】

変わった	92%
変わらない	8%

【「変わった」理由】

- ・自分の意見文を相手に納得させるためには根拠を述べる必要があるという意識を持つことができた。
- ・相手に分かりやすいように工夫して書こうという気持ちになった。
- ・みんなの文を参考にして書くように意識が変わった。
- ・ただ書いて終わるのではなく、友達と読み合い、更によくするようアドバイスし合うことで、より良いものが書けると気付いた。

【「変わらない」理由】

- ・これまで意識していたことだから、「変わった」とは思わない。

(2) 授業実践を通しての最終的な成果と課題 (○成果, ●課題)

① 手立て1 対話・共有の場の設定

- 対話・共有の場を設けることで、自分だけでは気付かない点に気づき、それを自分の意見文の手直しに生かすことができた生徒が多くいた。
- 「どのように書いたら良いか分からない」など、書き方で苦勞している生徒にとって、友達の作品を読むことは書き方に気付いたり、学んだりする場となった。
- 改善点だけでなく、参考になった点や良い点を伝え合うことで、自分の作品の良い点に気付くことができ、「書くこと」への自信につながった。
- 生徒たちが生き生きと活動する姿から、「書くこと」に関心を持って取り組んでいるのが伝わってきた。
- 友達の意見文を読んだ際に、どのように書くと更に良い意見文になるのか気付けない生徒もいたので、再度意見文を読む観点を示し、それに照らし合わせて助言するよう促したが、なるべく自力で問題を解決できるような働き掛けを工夫する必要がある。

② 手立て2 ワークシートの工夫

- 読み合う観点をワークシートに明示することで読む視点ができ、相互評価や助言の活動が充実したものになった。
- ワークシートを書く際、時間配分を意識させることやメモ書きにするなどスペースの工夫したこと

により、対話・共有の活動の時間を十分に確保することができた。

- 助言する観点だけでなく、良い点や参考になる点を設けたことにより、友達の作品の良い点に気付くことができた。

③ 手立て3 自分の作品を振り返る場の設定

- 相互評価や助言し合うという活動を経て、自分の作品をもっと良いものにしようとする意識を高めることができた。

- 文章の完成度が高く、改善点に関する助言をもらえない生徒もいたので、その生徒には最初に選んだ立場とは反対の立場で意見文を書かせたが、他に良い指導の在り方はないか、検討が必要である。

④ 手立て4 自分の考えを説明する場の設定

- 自分の作品をどのように推敲したのかを自分の言葉で分かりやすく説明することで、自分の考えを整理することができていた生徒が多くいた。

- 自分の言葉で説明することが苦手な生徒もいたので、どのように説明すればよいのかについての手立てを講じていきたい。

(3) まとめ

「書くこと」指導において、対話・共有の場を設定することで、生徒同士の気づきが意見文やレポートのより良い表現の仕方、根拠の示し方などの学びにつながった。最初是对話・共有の活動に不慣れでスムーズに進められなかった生徒たちも、回数を重ねるごとに、対話・共有を通して、考えを深めることができるようになっていった。今後も、対話・共有の活動が考えを深めることにつながるよう、「書くこと」の指導や国語の授業のみならず、全教科を通して指導していく必要があると考えている。また気付いたこと、学んだことを定着させるために、今後も「書くこと」の活動への意欲につながるよう継続した取組が必要である。

6 おわりに

今回の研究において対話・共有の場を設定することで、生徒同士の気づきが互いに作用し合い、「書くこと」における学び合いにつながったと考えている。しかし、一部の班では対話・共有の活動がただの意見交換で終わってしまい、理解を深め合うことができていないこともあった。「書くこと」の指導だけでなく、生徒同士の対話を通して生まれた気づきが理解を深めたり、思いや考えを基に創造したりする深い学びに発展するよう、今後も有効な手立てを講じ、生徒の能力の育成・伸長に努めていきたい。

【図表等の許諾について】

授業実践の中で生徒が記入したワークシートの一部である。記入生徒名を明記せずに掲載することとし、生徒の保護者及び所属校の校長から使用許諾を得た。